



「アラブの春」の陰に

チャーチルは言う。

「民主主義とは、これまで試されてきた形態を除き、政府として最悪の形態である」

(Democracy is the worst form of government except for all those others that have been tried.)

まともな選挙をしたからといって、リーダーが「優れている」とは限らない。ただし、悪いリーダーを辞めさせるツールにはなる。

現在も続く「アラブの春」の動きは、「権力の集中」、「贈収賄」、「貧富の格差」に対する国民の不満を表にするインターネットというツールを国民が手に入れたことを象徴していた。欧米諸国がダブル・スタンダードを使い続けてきたアラブ諸国の国民が「民主主義」の名のもとに、「欧米寄り」と思われてきた独裁者を倒し始めた。

しかし、彼らが西洋的な「民主主義」というツールを手に入れたからと言って、彼ら自身が西洋化するわけではない。彼らのアイデンティティーにとって大事な部分を主張し、その中から「最大多数の最大幸福」を求めて動くのである。つまり、ムスリムの多い国ではムスリムの価値観がその国での最大幸福になっていく。

宗教というものに対して寛大な日本にとって、これはあまり問題にならないかもしれない。しかし、キリスト教が根強い欧米諸国がこれを受け入れられるか、もしくは、受け入れざるを得ないところにまで、「アラブの春」が動いていくことになるのか。また、「アラブの春」は世界の他の国々へと拡がりを見せている。

「共産党一党独裁制」ともいわれてきた中国に、万が一、類似の大規模騒乱が拡がった場合はどうなるのか。キリスト教が根強い国々や、もともと国内で民族紛争が繰り返されてきた国々等でも、反体制デモが拡がっている。今後も世界中で起きているドミノの動きに目を離すことができない。

濱 美恵子(問合せ: mh@komatsuresearch.com)

▼参考レポート

- 中東で起きているドミノについて、小松啓一郎が朝日新聞でのインタビューと、藤井巖喜氏との対談インタビューにて解説しているので、ぜひ参照されたい。

http://komatsuresearch.com/index_files/jp_media.htm

本稿の内容については可能な限り正確を期していますが、万が一誤謬があった場合、Komatsu Research & Advisory (以下 KRA) は一切の責任を負いません。本稿の内容は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、KRA の統一的な見解を示すものではありません。情報や見解は、予告なしに変更することがあります。本稿からリンクを張っている第三者のサイトのコンテンツに関しては、KRA はいかなる責任も負いません。本稿の内容を利用したことと生じるいかなる不都合や損害についても KRA は一切の責任を負いませんのでご了承下さい。